

# 社 会 科

## 1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

小学校社会科の教科の目標は，「①社会的な見方・考え方を働かせ，②課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な③公民としての資質・能力の基礎を養う」という柱書部分と，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

なお，柱書の「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して」の部分は，社会科の特質に応じた学び方を示している。また，「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」の部分は，社会科の指導を通して，その実現を目指す究極的なねらいを示している。

### ① 社会的な見方・考え方

- ・「社会的な見方・考え方」とは，社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。
- ・小学校社会科においては，「社会的事象の見方・考え方」を働かせ，学ぶことを重視する必要がある（小学校社会科の各学年の目標においては，「社会的事象の見方・考え方」と表記）。
- ・小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」とは，「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して（視点），社会事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」である。
- ・「社会的な見方・考え方を働かせ」とは，上記の視点や方法を用いて，社会的事象について調べ，考えたり，選択・判断したりする学び方を示している。

### ② 課題を追究したり解決したりする活動

- ・三つの柱に沿った資質・能力は，習得した知識や技能を活用して，調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において，育成されるものと考えられるため，「課題を追究したり解決したりする活動を通して」と目標の柱書部分に位置付けられている（小学校社会科の各学年の目標においては，「学習の問題を追究・解決する活動」と表記）。
- ・学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るためには，問題解決的な学習過程を充実させる

ことが大切である。

- ・「問題解決的な学習」とは、単元などにおける学習問題を設定し、その解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指す。

### ③ 公民としての資質・能力の基礎

- ・「公民としての資質・能力の基礎」は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理した小学校社会科の目標(1)から(3)までに示す資質・能力の全てが結びついて育まれるものである。
- ・これまでの小学校学習指導要領解説 社会編等において「公民的資質」として説明されてきた態度や能力は、今後も「公民としての資質・能力」に引き継がれるものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

- ① 小・中学校においては公民としての資質・能力の基礎を育成すること。
- ② 社会科を通して育成を目指す資質・能力の具体を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で明確化すること。
- ③ 「社会的な見方・考え方」を働かせた学びを通して、三つの柱で整理した資質・能力を育成していくこと。
- ④ 社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図ること。
- ⑤ 小・中学校の社会科の内容を枠組みや対象に区分して整理したり、「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを整理したりすること。

### (2) 改訂の要点

- ① 「社会的な見方・考え方」については、小学校社会科の特質を踏まえ、「社会的事象の見方・考え方」と言い換え、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善を図る。
- ② 各学年の目標も、三つの柱に沿った資質・能力として整理・明確化する。
- ③ これまでの学習指導要領において、まとめて示していた第3学年及び第4学年の目標と内容については、系統的、段階的に再整理する。また、地図帳の使用を第3学年から目標に示す。
- ④ 内容について、中学校への接続・発展を視野に入れて、ア地理的環境と人々の生活、イ歴史と人々の生活、ウ現代社会の仕組みや働きと人々の生活、の三つに、また、ア、イは空間的な広がりを念頭に、地域、日本、世界と、ウは経済・産業、政治及び国際関係と、それぞれ区分して整理する。
- ⑤ 各学年の内容を「知識及び技能に関わる事項」と「思考力、判断力、表現力等に関わる事項」に分けて明確化する。
- ⑥ 現代的な諸課題を踏まえる観点から、我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考えられる学習の充実を図る。
- ⑦ 持続可能な社会づくりの観点から、人口減少や地域の活性化、国土や防災安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実するよう改善を図る。